

## 「基本設計及び用地に関する説明会」質疑応答の概要 (平成23年1月27日(木)調布市立緑ヶ丘小学校)

本資料は平成23年1月27日(木)調布市立緑ヶ丘小学校で開催された「基本設計及び用地に関する説明会」での質疑応答の概要を国土交通省東京外かく環状国道事務所が取りまとめたものです。

### 質問者

- ・ 用地幅杭は、全て設置し終わったのか。
- ・ 用地補償の今後の日程はどうなっているのか。

### 回答者

(国)

- ・ 用地幅杭は、まだ設置していない。今後、了解をいただいたところから順次設置させていただく。
- ・ 今年度は、生活再建のための予算が配分されている。希望される方がいらっしゃれば個別に相談させていただきたい。

### 質問者

- ・ ジャンクションやインターチェンジ周辺において、掘割構造に一部蓋掛けすることにより費用は増えるのか。
- ・ 外環、外環ノ2や外環を機能させるための都市計画道路を含めた全体の事業費はいくらなのか。
- ・ 外環は、誰が、いつまでに、どういったお金で整備するのか。決まっていない場合は、いつまでに決める予定なのか。
- ・ 事業主体が決まらない状況で、事業を進めるのは無責任ではないか。
- ・ 国土交通白書では、2037年になると維持費と更新費だけで賄えなくなると記載しているが、外環等の新しいものを整備することをどう考えているのか。
- ・ 今後、道路整備の予算が少なくなる見通しがされているのに、道路ネットワークが全て整備されることを前提に費用対効果を算出するのは非現実的ではないか。

### 回答者

(国)

- ・ 構造変更に必要な費用は、概算ではあるがほぼ同じ額に収まることを確認している。
- ・ 外環の事業費は、1兆2,820億円である。この地域に東京都や沿線区市が計画している道路が、どれ位整備されるかは、この場ではわからない。
- ・ 現時点では、国が事業を実施している。事業主体については、国土交通本省で議論しているがスケジュールは決まっていない。
- ・ 事業を実施することは決まっている。事業主体が決まらない状況で止めておくことは、事業範囲にいらっしゃる方にご迷惑が掛かるため、生活再建への対応を進めている。

- ・ 外環については、整備に必要な事業費や更新するための費用が必要であることを認識したうえで、平成 22 年 4 月 9 日に高速道路の再検証が示されているため、事業を実施していくものと認識している。
- ・ 平成 22 年 11 月 19 日に国土交通省のホームページに将来交通需要推計の見直しが公表されている。そのなかで、現在ある道路と事業を実施している道路のみ絞ったネットワークで、費用対効果を算出し直すことが示されている。作業が終われば、お示し出来るのではないかと考えている。

#### 質問者

- ・ 外環の整備により、大気汚染や地盤沈下が生じるのではないか。
- ・ 調布市の土地開発公社が用地を先行取得するのに、利子を含めてどの位の費用が掛かっているのか。今後の見通しをどの様に考えているのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 平成 19 年の都市計画変更時に環境影響評価を実施し、環境省が定める水準を満たすことが出来ると考えている。その後も環境面で影響が出ないように検討を進めている。今回の構造の見直しについても環境面でも良くなるだろうと提案させていただいている。なお、地盤沈下については、地下水の流れを遮断しないように地下水流動保全工法の採用を考えている。
- ・ 調布市等で先行的に取得している土地は、今後国が取得する予定。

(調布市)

- ・ 調布市の土地開発公社が、生活再建救済制度で取得した土地は 24 件あり、利子などの諸経費を含めて合計で 51 億円である。買い戻しについては、現在調整中である。

#### 質問者

- ・ 用地幅杭の設置を希望しない場合は、どうなるのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 今年度は、生活再建を希望する方の対応を行っているため、現時点で生活再建を希望しない場合は用地幅杭を設置しない。

#### 質問者

- ・ 現在、大深度地下以浅の区間は、用地交渉を行っているのか。
- ・ 深さは何メートルまでが大深度地下以浅の区間となるのか。

回答者

(国)

- ・ 大深度地下以浅の区間には、区分地上権を設定する。区分地上権を設定する区間には、本線の深さによって補償額を設定させていただく予定である。区分地上権を設定する区間では、生活再建で今対応することは考えていない。
- ・ 大深度地下以浅は、本線トンネルでは深さ 41m より浅い区間と考えている。

以 上